

シリーズ 探訪 わが町文化財

番外編

「湯浅党城館跡」
ゆあさとうじょうかんあと

湯浅城跡・藤並館跡」
ゆあさじょうあと ふじなみやかたあと

新たに国指定の史跡に その1

湯浅党とは

「湯浅党」という武士団をご存じでしょうか。湯浅党とは、平安時代末期から南北朝期にかけての紀伊国で、非常に大きな勢力を誇った湯浅氏を中核とする武士団の総称です。その勢力は、本拠の有田郡を中心に紀北の紀の川流域から紀南地方の一部に及んでいました。湯浅党は主に「一門」と呼ばれた血縁関係のある同族と、婚姻や養子関係によって結びついた「他門」と呼ばれる在地領主らで構成され、一門と他門が連合して武士団を組織していました。湯浅一族出身の「明恵上人」も湯浅党と非常に関わりの深い人物です。

湯浅党は、全国的に見ても非常に豊富な文献史料が残されていることから、中



湯浅党の本拠を望む（南西から）



藤並館跡航空写真

世武士団の実態を示す典型事例として注目され、これまで多くの調査研究が進められてきました。しかし、その拠点である城館についてはほとんど調査されておらず、その実態は不明でした。町教育委員会では、平成28年度（2016年度）から有田市・湯浅町と連携協力しながら湯浅党と関連が想定される城館について実態解明に向けた調査研究を行ってきました。

令和2年（2020年）11月20日、国の文化審議会は「湯浅党」が地域支配の拠点とした城館の中で、湯浅城跡（湯浅町青木・山田、有田川町熊井）と藤並館跡（有田川町下津野）を「湯浅党城館跡」として新たに国の史跡に指定するよう文部科学大臣に答申しました。これにより、町内における国指定史跡は、明恵紀州遺跡率都婆に次いで2件目となることになりました。

